

平成27年度第2回横浜市子ども・子育て会議放課後部会 会議録	
日 時	平成28年2月5日（金）18時00分～18時40分
開催場所	関内中央ビル 3A会議室
出席者	明石要一部会長、橋本ミチ子委員、相原和行委員、大野功委員、住田昌治委員、 梁田理恵子委員、工藤春治委員、永井萬里子委員
欠席者	森佳代子委員、山手英樹委員
開催形態	公開（傍聴者3人）
議 題	<p><議事></p> <p>1 今後の放課後部会のスケジュールについて</p> <p><報告事項></p> <p>1 横浜市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について</p> <p>2 平成28年度予算（案）について</p>
決定事項等	今後の放課後部会のスケジュールについて、放課後部会として事務局案を了承した。
<p><議事></p> <p>1 今後の放課後部会のスケジュールについて</p> <p>→議事の内容を説明する都合上、報告事項（1）を先に説明</p> <p><報告></p> <p>1 横浜市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について</p> <p>（事務局）資料6・7に基づき説明</p> <p>（明石部会長）点検・評価を毎年1回行うということですが、いつ行うのでしょうか。</p> <p>（事務局）年度終了後に意見をもらい、翌年度の6月から7月の部会で振り返ります。</p> <p>（明石部会長）目標値に対する「進捗状況」を4段階で評価し、計画どおりに進んでいるか、アウトプットの評価をするということですね。</p> <p>問題は、「有効性」で利用者や事業者からの意見・評価を踏まえて、アウトカムの評価をする場合に、「市民生活等を向上させることができる」ということについて、どのように把握するかですね。</p> <p>（事務局）この部分については、事業を実施したことによって何らかの「市民生活等の向上」につながっているかどうかについて、まず事業ごとに確認をすることになります。市民や事業者のご意見をいただいて、行政としては総合的に判断した内容を点検評価シートに記載します。</p> <p>そして、点検評価シートの内容について部会で議論していただき、この評価の部分についてを確定させていただくことになろうかと思えます。</p> <p>（明石部会長）そうすると、この放課後部会では、大きく分けると、放課後児童育成事業とプレイパークの支援事業という2つに限定して、総合的に見ていくということですね。</p> <p>（事務局）そのようになります。</p> <p>（明石部会長）資料6の「5 計画の見直し」で、中間年である平成29年に報告を受けて、評価をするとなっています。この中間年での評価が一番大事でしょうね。</p> <p>（事務局）1年目、2年目の取り組みを受け、3年目の時点でそれまでの取り組みをどう評価するのかということもありますので、中間年では、総合的な点検・評価を行うことになるかと思えます。</p>	

(大野委員) 進捗状況の評価について「計画より大幅におくれている」、有効性の評価について「市民生活を向上させることができず、利用者、実施事業者からも評価も低い」となる場合、D評価となります。平成29年度の結果がD評価になれば、残りの年度で解消できるのですか。

(事務局) 事業そのものの見直しということも、場合によっては出てくるとは思います。

(大野委員) それが可能かどうかについても、ここである程度判断せざるを得ないですね。

(橋本副会長) 「有効性」の評価ですが、親の意見を優先すると親からの評価は高くなるでしょう。しかし、親の意見を優先して事業を行ったことにより、子どもの主体性や自主性、子どもの幸せ、生きる力のよなものや育つのかどうか気がかりです。

(事務局) その部分も含め、部会の中でご意見をいただき、それを踏まえ、その後の事業展開に反映させていきたいと考えております。

(明石部会長) 橋本副会長の意見は、とても大事だと思います。利用者である保護者の意見を踏まえて事業を行えば評価が高くなりますが、それが子どもの成長にとってプラスとならない場合があるかもしれません。

そのような意味では、アウトプットとアウトカム、事業評価と市民の生活とか子どもたちの生活が向上したという視点が大事かなと思います。例えば、アウトカムでいうと、キッズクラブに参加して活性化すると小学校のいじめが減るとか、体力がつくとか、給食と夕飯の残飯が減るとか、昼間十分に遊ぶので早く就寝し生活リズムができたとか、そのようなことが出てくると、やはりキッズクラブの全校実施が必要ということにつながります。

(相原委員) 「保護者が預かりやすいから高評価」とするだけではいけないということですね。

(明石部会長) 大変大事なご指摘だと思います。そのようなことを頭に入れておいて、点検・評価を見ていきたいと思っております。

<議事>

1 今後の放課後部会のスケジュールについて

(事務局) 資料8に基づき説明

(明石部会長) 平成27年度中に3回の部会を開催する予定であったが、2回目が本日の2月にずれ込んだために、3回目で予定していた予算等の説明が可能になったので、修正して2回の開催としてよろしいでしょうかというご提案です。

→事務局案を了承

<報告>

2 平成28年度予算(案)について

(明石部会長) 「常勤職員の処遇改善」について、具体的には時給の単価を上げるのか、人を増やすのか等、お聞かせください。

(事務局) 国の補助制度を活用し、常勤職員の賃金改善を行うものです。

(明石部会長) やはりいい人に来てもらうには、処遇を改善しないといけないと思います。

(住田委員) 放課後児童健全育成事業の障害児受入加算補助を拡充するというのは、とても大事なことだと思います。現場では今、個別支援学級への入級児童が増えています。一般級にも個別判定の児童がかなり入っ

てきています。年々増えていく状況であり、児童を受け入れる体制がきちんと整えていただくことは大事だと思います。

また、施策3の放課後等デイサービスとの絡みでどのように課題を整理するかということがあるとは思いますが、いずれにしても、障害児受入加算補助の予算が拡充するというのは、とてもありがたいと思います。

(事務局) 障害児受入職員配置加算補助については、国費の制度が拡充されたため、それを活用できるように、補助体系を整理しました。障害児がいる場合には、職員を手厚く配置する必要がありますので、そのための人件費補助が手厚くなったということです。

また、放課後等デイサービスも箇所数としては増えていますが、放課後児童健全育成事業は留守家庭児童のためという目的があり、放課後等デイサービスは障害のある子どもを対象としており、事業の目的が異なります。実際には、例えば、はまっ子ふれあいスクールから放課後等デイサービスに行くとか、週2回ははまっ子ふれあいスクールで週2回は放課後等デイサービスを利用するとか、様々な調整があるようです。放課後等デイサービスの担当課とは情報を共有していますが、施策としては別々という形になっています。

(明石部会長) この厳しい財政状況の中で22%も予算が増加したことに驚いています。横浜市は、保育所の待機児童ゼロに力を入れておりますが、子どもが成長すると、放課後の留守家庭児童が増えますね。留守家庭児童の1万1000人が5年後には2万4000人ぐらいになる見込みということで、そのような増加を含んで、このような予算措置をとられたのでしょうか。

(事務局) もちろん事業費としては22%増なのですが、国費と県費の導入を最大限図る形に事業を整理したため、横浜市の負担増は1%ぐらいです。

(明石部会長) 市費は38億なのですね。

(事務局) はい。例えば、国の制度では、運営費は保護者と行政が1対1で費用負担するという考え方ですが、障害児については全額公費になったので、国費と県費を最大限導入できるような予算を組んだということです。

今まで市単独でしかできなかった事業等もありますが、そういったところにある程度、国の補助が手厚くなってきた部分もしっかり活用したということです。

(明石部会長) 消費税8%、10%の効果かもしれないと。

(事務局) それもありますし、国の予算の中で子ども政策が充実してきているということの反映でもありますので、子どもも活用しない手はないということです。

(相原委員) 今年度は、はまっ子ふれあいスクールから放課後キッズクラブへの転換に当たって、課題等は何かありましたか。順調に転換できたか気になりました。

(事務局) 従前に問題になっていた、教室の空きの問題については、今後の転換校によってはまだ厳しいところがあるかもしれませんが、教育委員会にもご協力いただけるようになり、場所の確保については今年度、来年度の学校はほぼ大丈夫です。

ただ、オリンピックの関係でしょうか、入札不調によって工事が予定どおりいかないことはあり、夏休みに工事予定だったができずに、多少秋にずれ込むようなことがありました。また、入札不調によって、教室の整備ができないけれども、放課後キッズクラブの運営を先に開始せざるを得ないところが、数カ所です。また、公募法人型の放課後キッズクラブについては、応募が殺到する小学校と、応募が少ない小学校があったため、今後はより一層この事業を理解していただいてご応募いただき、その小学校に対して適

切な法人を選べるような体制をとらなくてはいけないというのが課題かと思っております。

(工藤委員) 現在の放課後キッズクラブへの転換という項目で、28年度末に203カ所と書いてありますけれども、その内訳に関する資料お見せいただきたいと思います。

(事務局) かしこまりました。皆様のところへ送付させていただきます。(2月9日に委員へ送付済)

<その他>

(住田委員) 点検・評価について、「利用者や実施事業者等からの意見を把握する」とありますが、この「等」というのは、学校関係者も入るのですか。

(事務局) 関係者という意味では入ると思いますが、点検・評価の対象について、まだ議論がされていない状況です。

(住田委員) 先ほど明石先生から、放課後キッズクラブに転換することによって、例えばいじめが減る等があれば、というお話がありましたけれども、放課後キッズクラブもはまっ子ふれあいスクールも、学校と非常に連携をとってやっていますので、学校での子どもたちの様子・変化等、数字の評価ではあらわれない部分がそこで把握できると思います。ですから、子どもに直接かかわっている学校からの意見もぜひ聞いていただけると、より把握できるのではないかと思います。

(明石部会長) 本当によいご意見で、ぜひ協議委員会との連携も含めて、学校のデータから放課後キッズクラブの点検・評価というのを出してくれると、大変ありがたいですね。

資料	資料1 横浜市子ども・子育て会議放課後部会 委員名簿 資料2 横浜市子ども・子育て会議放課後部会 事務局名簿 資料3 横浜市子ども・子育て会議条例 資料4 横浜市子ども・子育て会議運営要綱 資料5 放課後部会のスケジュール 資料6 横浜市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について 資料7 点検評価・様式 資料8 28年度こども青少年局予算概要(抜粋)
特記事項	本日の議事録は、各委員に確認していただいた後、ホームページで公開する予定です。